

Radio On The Street
西谷文和

路上のラジオ ファンクラブニュース

2021.4.8 第7号

発行責任者：西谷文和

連絡先：〒564-0041 大阪府吹田市泉町1-22-33

TEL 06-6170-4757

メール otayori@radiostreet.net

このニュースは募金いただいた方、講演会に参加された方に郵送しています。今後も年に4回程度発行します。

ラジオの聞き方

スマホやパソコンで「路上のラジオ」と検索してください。YOU TUBE で聞けます。チャンネル登録していただきますと、毎回お知らせが来るので便利です。

馬毛島に行ってききました

スカスカの飛行機で

2021年2月3日、大阪・伊

丹空港から鹿児島県種子島に飛ぶ。鹿児島空港まではジェット機、そこからプロペラ機で種子島空港まで行くのだが、伊丹空港はがらんとした体育館の様相。掲示板には「欠航」の文字が並ぶ。「これはひどい。JALもANAも潰れるかも」。アベスガならぬスカスカ飛行機を降りると「馬毛島への米軍施設に反対する市民・団体連絡会」会長の三宅公人さんが待っていてくれた。



種子島から12キロの無人島、馬毛島。豊かな緑が削り取られて2本の滑走路が建設された。島には絶滅危惧種の「マゲシカ」がいる。

無人島に基地が？

馬毛島は種子島の西方約12キロに位置する無人島。面積はわずか8、2平方キロメートルの平坦な島で、無人島なのに島の中央には小中学校の跡地があり、舗装された道路や廃屋、なんと製糖工場の跡地まで。そう、かつての馬毛島は500名の人口を抱え、その住所は「西之表市馬毛島」であった。戦後の食糧不足から「二男、三男対策」として開拓民が移住を始める。しかし島での生活は厳しかった。飲料水の確保に悩まされ、せつかく育てた作物を今や絶滅危惧種の馬毛鹿（マゲシカ）に食べられてしまうことも多々あった。農業の不振から島の人口が減少に転じた。1970年代、大規模レジャー施設を作ろうとした平和相互銀行が（株）馬毛島開発を設立し、島の土地買収に着手、人々は次々と離島していく。無人島に戻った馬毛島を1995年立石建設（株）が買収、社名をタストーンエアポート（株）に変更。立石建設は豊かな森を伐採し、島を十字に切り裂く2本の滑走路を

建設する。そして2011年、米軍のFCLP訓練基地の候補になった。夜間に行われるタッチアンドゴー

FCLP (Field Carrier Landing Practice) とは、「タッチアンドゴー」と呼ばれる米軍の空母艦載機による離着陸訓練のこと。空母の甲板は300メートルほどの長さしかないので、超音速で飛ぶF35やF18を急減速着陸させ、逆に急発進離陸させないと実戦で使用できない。何しろ着陸した戦闘機をワイヤーで止め、離陸の際には背中を押す加速器まで。極度の恐怖に打ち勝つ度胸と経験豊富な技術がなければ空母への離着陸は無理なのだ。したがって空母を持つている以上、この訓練は必須。FCLPという言葉の意味がわかりました。でも確かNLPって呼ばれていたのでは？

そう、かつてはNLP (Night Landing Practice) つまり夜間着陸訓練と称していた。なぜ夜間？湾岸戦争やイラク戦争を思い出してほしい。ペルシャ湾の空母から飛び立った戦闘機は夜明け前のバグダッ

厚木基地で行われていたが、騒音がひどく苦情が殺到し、91年以降は厚木から約1200キロ離れた小笠原諸島の硫黄島で行われてきた。その後、在日米軍の再編が行われ、山口県の岩国基地に移動。岩国から硫黄

ドに襲いかかった。敵の攻撃を避けるため空爆は夜間に行われる。ついでにいうとアフガンやイラクの米兵は「赤外線暗視スコープ」なるものを装着していて、夜間でもクツキリと敵の位置を把握している。タリバンと米軍では大人と幼児くらいの実力差なのである。だからタツチアンドゴ訓練は主に夜間に行われる。

もっと近いところ



人口1万5千人の市で30万筆の署名を集めました

島まで約1400キロとなり、さらに遠くなった。「もっと近いところ」でやらせてくれ。在日米軍の要請



硫黄島は遠すぎる。もっと近いところでやらせてくれ。米軍の「抗議」で、馬毛島に白羽の矢が立った。おそらく種子島の人々は爆音で眠れないだろう。そもそもなぜ米軍の要望を簡単に通してしまうのか？ スガ政治の責任は重大

を受け政府が目をつけたのが、岩国から400キロ、「無人島で滑走路のある馬毛島」だった。(図) 当初は大反対だったのだが

「2011年6月、日米安全保障協議委員会、いわゆる2プラス2で馬毛島が正式に候補地になったんです。私たちはビックリして市民の3分の2を超える反対署名を集めました。当時は圧倒的に反対が多かったです。防衛省はあきらめなかったんです。タストン社と極秘に買収交渉を進めながら、基地交付金というアメをちらつかせて地元住民を切り崩してきました。19年4月、2プラス2で馬毛島は「候補地」から「建設地」になり、30万筆を超える反対署名を集めて防衛省に提出したところなんです」。連絡会会長の三宅公人さん(写真)が最近の動向について解説してくれる。種子島出身の三宅さんは医師となり、山形県の病院に勤務。民主医療機関連合会の会長として医療現場を守る立場にあった。定年退職後は故郷で農業をやりながらのんびり暮らそうと考えていたが、そうはさせてもらえなかった。

では馬毛島に上陸してみよう

三宅さんから、漁師で民宿を経営する日高薫さんを紹介される。反対

派の日高さんは馬毛島生まれ。今は無人島になったが、廃屋となった自宅、島で学んだ小中学校、釣りをした港、泳いだ海は日高さんの故郷だ。大阪から馬毛島問題取材にやってきた私を漁船里美丸で馬毛島まで行ってくれという。三宅さんは仕事で同行できないが、明日は奥さんの悦子さん、ドキュメンタリー映画「島を守る」を制作中の川村貴志さん、未菜さん夫婦、連絡会幹事の清水捷治さん、そして私の6人で島に渡ることになった。(次号に続く)

あなたのご寄付で発信を続ける
「路上のラジオ」
ご支援よろしくお願ひいたします
【寄付の宛先】

口座番号	ゆうちょ銀行 00950-6-238014
	近畿労働金庫 吹田支店 普通 8788810
口座名義	路上のラジオ (ロジョウラジオ)

小出先生に聞く その2 止めたら停電コストが安いもウソだった

政府自身のデータで

— 政府や電力会社の言ってきたことはウソばかりでした。例えば「原発を止めたら停電する」。小出さんは311以前からウソだと指摘されていきましたね。そして福島事故後、全ての原発が止まっても電気が余った。このウソも事実によって暴かれましたね。

小出 これは当たり前のことで、政府の統計局が日本にどれだけ発電所

があるかというデータを出していません。そして日本でどれだけ電気を使うか、のデータも統計局が出していたのです。このデータをきちつと見ていけば、「原発は不要だ。即時に全てを止めても、いついかなる時も停電しない」というデータが政府によって示されていたのです。私はずっとこのことを発信していたのですが、政府や電力会社は「日本の電力の3割を原子力が支えているから、止めれば停電するぞ」と脅かし続け

てきたのです。

即刻やめるべきです。

— 逆に九州電力では、電気が余りすぎて太陽光発電を止めてましたからね(笑)。

小出 そうです。馬鹿げたことをやってきました。これから再生可能

エネルギーを進めていくということであれば、むしろ原発をどんどん止めていく方向で経営陣も動かなければならないと思います。実際の「コストから逆算すると

— 「原発のコストが一番安い」。これもウソでしょう?

小出 それも全くウソです。原子力マフィアたちは自分達に都合のいいモデルを作って、架空の単価を「ねつ造」してきたのです。発電単価を火力発電はいくら、原発はいくらと、モデルに沿って計算をして、宣伝してきたのです。大切なことは「実際にかかった費用はいくらだったのか」。電力会社の経営データを使って逆算すれば全てが明らかになる。

大島堅一龍谷大学教授が、電力会社の有価証券報告書に出てくる実際のデータを使って計算したところ、原発が他のどんな発電方法よりコストが一番高いということが明らかになりました。さらに言えば大島さんが計算したのは福島事故前のデータです。福島事故の終息のための費用や

被災者への賠償費用などを加味しなければなりません。今、国は約22兆円かかると言っていますが、とてもそんな金額では済みません。「日本経済センター」という民間のシンクタンクは70〜80兆円と算出しています。

— 将来世代へのツケになってしまいますね。

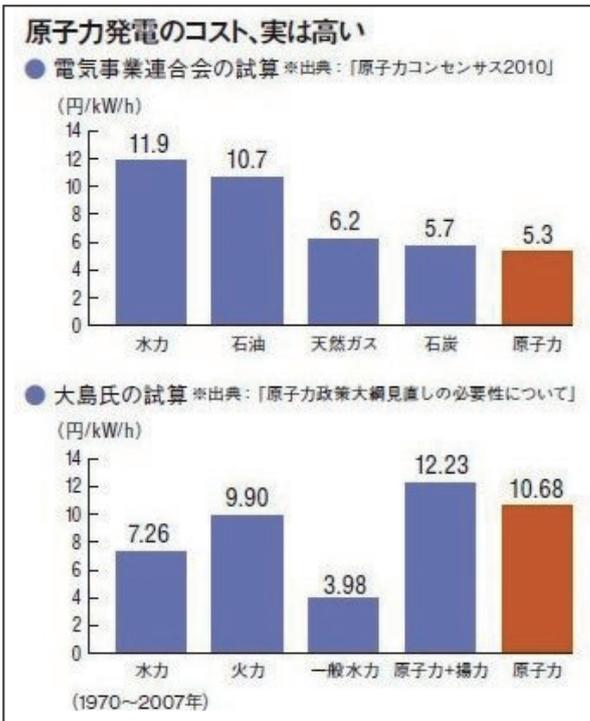
小出 この70兆円という金額をこれまでに原発が作り出した電気、7兆キロワットアワーで割ると発電単価は1キロワットアワーで10円になる。

— えっ、賠償費用や廃炉費用だけ?

小出 これだけで火力や水力を上回ってしまう。話にならないくらい原発は高くなってしまいます。さらに「核のゴミ処分コスト」がこれに加わる。10万年お守りするコストを考えると、どれだけ高くなるのかわからなくなってしまう。

— だから世界の投資家は原発から引き上げています。

小出 世界中で「原子力が投資に見合わない」ことはずっと前からわかっていた。しかし「投機」という形、マネーゲームでやっていたのですが、福島の事故が起きて、世界では原子力から撤退するという時代に入りました。今後は投機という形でも原子力は成り立たないでしょう。(次号に続く)



これは福島事故前のもの。賠償金、廃炉費用などを上乗せすると20円をゆうにこえて、原発は「バカ高い」ものになる。

編集長のひとり言



亡母から相続して移り住んだ岐阜の家の庭には、小さな桜の木があります。唐実桜(からみざくら)というらしいのですが、早春から可愛らしい花を付け、3月中には散ってしまいます。そして温かくなる頃には、小さなさくらんぼがたわわに実ります。

さて、私がまだ東京に住んでいた頃、子どもたちとここに遊びに来ていて、おやつにいたいたさくらんぼの種を子どもたちが、庭遊びのなかでふざけて植えたことがありました。当然にそのようなのは芽吹くわけではないのですが、

おばあちゃんを楽しげな孫たちのためにと小さなうそを考え、どこからか小さな桜の木を取り寄せ、その場所にこっそりと植えたのでした。その後桜の木はどんどんと枝葉を伸ばし、おばあちゃんは今もうその枝が指し示す宙の先に行き、その時の子も今春、社会人になりました。孫愛おしさのやさしい嘘が、毎春私たちの心に温かい薄紅色の風を運んでくれます。虚構の中に大切なものが見えることがあります。人は真実とそうでないものの中を行き来しながら、折り合いをつけているのかもしれないね。

編集後記

拙著「ポンコツ総理スガーリンの正体」に登場いただいたジャーナリストの青木理さんは、4月からテレビ朝日のモーニングショーを降板された。同じく佐高信さんはスガ政権になってからテレビに出ていない。小出裕章さんはずっと「放送禁止物体」(苦笑)である。辛うじて日本には「言論の自由」があるので、こんな題名の本を出版できるが、そろそろ私もヤバイのか?(笑)。香港やミャンマーのようにならないために今、このラジオを拡散して、打倒!スガ政治。

会計報告とお礼

2020年収入の部

募金	6,712,330
イベント収入	27,110
合計	6,739,440

2020年支出の部

印刷郵送費	193,048
HP制作・管理	242,660
スタジオ使用料	564,710
番組制作費	3,716,647
合計	4,717,065

収支残高	2,022,375
------	-----------

2020年度は上記の通り、みなさまからの温かいご支援で番組を軌道に乗せていくことができました。20年度からは第5金曜日の発信、東京での収録、福島や松本、馬毛島への現地取材などを実現させることができました。誠にありがとうございます。引き続き21年度も充実した番組制作に奮闘する所存です。タブーなし、忖度なしの番組が作れるのも、特定のスポンサーに頼ることなく、市井の方々からのご支援があるからこそだと考えております。引き続きのご支援をよろしく願いたします。

路上のラジオ事務局
スタッフ一同 西谷文和

本の紹介

21年4月上旬、「ポンコツ総理スガーリンの正体。すべてはウソと八百長だった!」が発売されます。これは「路上のラジオ」に登場いただいた、佐高信さん、青木理さん、前川喜平さん、望月衣塑子さん、小出裕章さんの対談をまとめたものです。さらに第2部で現地レポート「馬毛島基地問題は逆森友事件だ」を掲載しています。今年の秋までに必ず総選挙があります。ぜひお読みいただき、「スガ政治を許さない」全国的な運動を巻き起こしましょう。

A5版 212ページ。本体1400円。
お申し込みは、FAX06-6465-1255
またはメール nishinishi@r3.dion.ne.jp まで。

ポンコツ総理 スガーリンの正体

菅 義 偉

すべてはウソと八百長だった!

佐高 信
評論家・ノンフィクション作家
ジャーナリスト

青木 理
元文部科学事務次官
東京新聞記者

前川 喜平
元文部科学事務次官
東京新聞記者

望月衣塑子
元文部科学事務次官
東京新聞記者

小出 裕章
元文部科学事務次官
東京新聞記者

西谷文和・編



西谷文和
路上のラジオ
Radio On The Street

日本機関紙出版センター

世界の紛争地から戦争のリアルを伝えるフリージャーナリスト、西谷文和！
彼だからこ見える。この国の間違った未来